国立研究開発法人国際農林水産業研究センターの平成25事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による
	平成25年度の総合評価が「A」評価(標準評価)であったこと等を踏まえ、役員の解任等は行わなかった。

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による
	平成25年度の総合評価が「A」評価(標準評価)であったこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。

3. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	25業年度評価における主な指摘事項	平成26及び27年度の運営、予算への反映状況
総合評価	(管理・運営について)	
		研究材料の持出・持込の有無を確認できるよう、外国出張計画書の様式を変更するとともに、検疫検査が終了していることを示す書類の提出を義務づけた。また、検疫手続きや検査確認の方法を徹底するための講習会を行い、再発防止に向けた研修や注意喚起を行った。
業務運営の効率 化に関する目標 を達成するため とるべき措置	(評価・点検の実施と反映) 評価基準に関しては、今後も多面的な評価基準の可能性を考慮しつつ、それを踏まえた総合的な評価が図られることを期待する。	公表論文数や主要普及成果、国際会議への出席件数や国際シンポジウムの開催件数、人材育成の実績、費用対効果の分析等、多様な指標を組み合わせることで、研究成果や業務運営の達成度を測り、総合的な評価を行った。
	(研究資源の効率的利用及び充実・高度化)	
	今後も外部研究資金の獲得に向けた取組を期待する。	グループウェアやメーリングリストを活用して外部研究資金に関する情報発信を継続したほか、科学研究費助成事業公募要領等説明会(文科省)や競争的資金セミナー「科研費獲得の方法とコツ」(農水省)への参加を呼びかけるなど、獲得に向けた取組を行った。